

# デーリー東北

2020年(令和2年)10月3日(土曜日) (17)

後部座席からの空気の流れをスモークで可視化した実験



## 車内 ウイルスの流れは?

コロナ対策 八工大がスモークで実験

八戸

新型コロナウイルスの感染防止策に関する調査研究に取り組む八戸工業大は9月29日、同大敷地内の自動車工学センターで、タクシーに見立てた車両内でエアロゾル(微粒子)が飛散する様子をスモークを使って可視化する実験を行った。八戸市などで事業を展開するタクシー事業者や行政関係者約30人が立ち会い、現在行っている感染防止対策の改善点や強化方法について認識を深めた。

(三浦千尋)

### タクシー事業者が学ぶ

同大機械工学科の浅川拓克准教授は、季節性インフルエンザの流行期に備える目的と同時に、今後は首都圏など青森県外からの観光客の増加が予想されることから、タクシーなど公共交通機関の運転手を感染から守る方策を研究。感染が疑われる乗客を輸送するケースも考えられることから、車両内の空気を外へ効率的に排出する換気システムの開発に着手した。

実験は、運転席と後部座席の間をビニールシートで仕切った車両内に、エアロゾルに見立てたスモークを充填させ、空気の流れを可視化して行った。

同大機械工学科の浅川拓克准教授は、季節性インフルエンザの流行期に備える目的と同時に、今後は首都圏など青森県外からの観光客の増加が予想されることから、タクシーなど公共交通機関の運転手を感染から守る方策を研究。感染が疑われる乗客を輸送するケースも考えられることから、車両内の空気を外へ効率的に排出する換気システムの開発に着手した。

八戸タクシーの三浦浩代表は「運転席側に空気が逆流する様子を見てぞっとした。実験を踏まえ対策を強化したい」と強調。浅川准教授は「運転手と乗客の安心につながるためにも、実用化に向けてさらに改良していく」と話していた。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。